

**大学発新産業創出プログラム プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援
事後評価結果**

研究開発課題名:	アルツハイマー病を発症前診断・早期診断する技術の事業化検証
研究担当者 (所属・役職・氏名)	東京慈恵会医科大学 ウイルス学講座 准教授 小林 伸行

1. 本事業での活動目的

健康寿命の実現のために、認知症は克服すべき疾患である。しかし、認知症を代表するアルツハイマー病 (AD)であっても、その診断には高い専門性が必要である。さらに、AD の脳に蓄積するアミロイド β を除去することを目的とした治療薬が登場したことから、AD を早期診断する重要性が増した。これらの課題を解決するために、血液中 COASY 遺伝子 DNA メチル化量 (me)を測定することで、AD を診断する技術を開発した。本事業ではこの研究シーズを用いたビジネスモデル仮説を策定するとともに、顧客ヒアリングを進めて、ビジネスモデルの現実化・高度化を図る。主に、血液 COASY me 測定のサービス価値と信頼性の検証に取り組む。

2. 総合所見

アルツハイマー病の発症前診断・早期診断という明確なニーズと、技術検証結果を基に積極的にヒアリングを進め、事業立ち上げ時のコストを明確化し、会社設立の準備を着実に進めたことを評価する。事業会社との共同研究による連携も進めており、事業化を実現することを期待する。

以上